

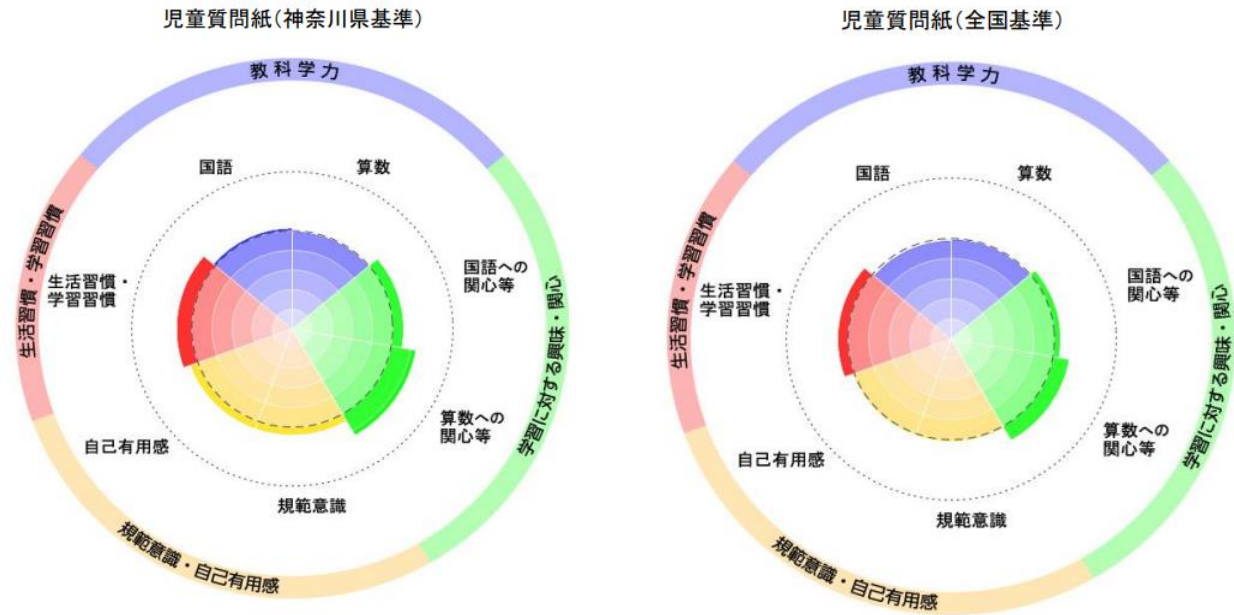
令和5年12月4日

横浜市立根岸小学校  
校長 杉山 真理子

保護者様

## 令和5年度 第6学年 全国学力・学習状況調査 結果について

4月18日に、小学校6年生対象の全国学力・学習状況調査が行われました。結果が出ましたので、考察とともにお知らせします。



### 国語

平均正答率で比較すると、全国67.2%、本校66%と全国を1.2ポイント下回った。

観点別に見ると、「知識及び技能」において、神奈川県、全国の平均正答率をわずかに上回っている。漢字の使い方、文章の種類や特徴、情報と情報との関係付けの仕方などを理解し、身に付けることができているといえる。これは、繰り返し学習をしてきたことが身についたと考えられる。しかし、漢字の書き取りについては、定着が不十分と感じる部分がある。それは、ICT機器活用が充実する反面、漢字を書いたり、文章の中で使ったりする機会が減っているからだと考えられる。朝の時間や家庭学習等を活用して、基礎・基本の定着を図ることができるようしていく。

一方で「思考力、判断力、表現力等」は平均正答率を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」に関わるインタビューの様子から話の中心を捉えることができるかどうか問う問題では、平均正答率を大きく下回った。文章や会話の中で、話の中心を捉えながら情報を正確に読み取ったり、自分の考えを表現したりする活動を充実させるようしていく。引き続き重点研究で国語科の授業改善に力を入れて取り組んでいく。

## 算 数

算数では、4領域中1領域で全国平均をやや上回った。

「変化と関係」の領域では、正答率が70%を超えている。二つの数量の関係を考えることを繰り返し学習してきたことで、二つの数量の関係を読み取ることができるようになっていいると考えられる。一方で、「データの活用」の領域は、全国平均を下回り、問題ごとに見ても、正答率が大きく下回っている。グラフを読み取ったり、複数のグラフを見比べたりして、気が付いたことや違いを見出すことを表現することに課題があると考えられる。

繰り返し学習することが定着に結びついていることから、引き続き算数マラソンやデジタルドリルを活用して、繰り返し学習したり、復習したりできるようにすることが大切である。また、グラフなどのデータを活用して自分の考えを表現する力が身につくように、算数での学習だけでなく、他教科でもデータを活用し、表現する学習を充実させていく。

## 生活意識調査

算数の学習への関心意欲が全国平均よりも高いことが分かる。これは、少人数学習が児童の「分かる・できる・楽しい」につながり、学習に向かう力が自然と身についていると考えられる。引き続き、子ども達にとって適切な学習内容を吟味し、どの子も「分かる・できる・楽しい」と実感できる授業を目指していく。

また、「自分には、よいところがありますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問には、「当てはまる」と回答した児童が平均を上回っている。運動会・修学旅行・他学年との交流等ができており、コロナ禍で活動が制限されていた頃に比べると前向きに活動に取り組む場面が増え、他者と関わる大切さや、自分は必要とされている感覚を実感することにつながった。こういった機会を生かしながら、各学級で行っている「いいところ見つけ」なども継続的に行い、今後も児童の自己有用感を高めていく。